平成 30 年度北区政策課題研究会 ROSE
事業提案書

研究テーマ：水辺空間の有効活用に関する調査研究

＜活動メンバー＞

宮﨑 涼

高橋　英里香

市川　浩平

森井 彩奈

西村　晃司

中野西　将成

末岡　円

目次

１．提案に至る背景----------1
（１）ミズベリングとは----------1
（２）ミズベリングにかかる現状（全国～北区）----------1
（３）ロゼが行った調査----------2
（４）魅力的な水辺空間の創出へ向けて----------4
（５）基本方針----------4
２．提案事業１（荒川）----------5
（１）河川利用のしくみづくり----------5
（２）シェアサイクル----------7
（３）Google マイマップ ----------9
３．提案事業１の効果・スケジュール----------11
（１）効果----------11
（２）スケジュール----------12
４．提案事業２（石神井川）----------13
（１）にぎわいの場づくり----------13
（２）ふれあいの場づくり----------15
（３）つなぐ場づくり----------17
５．提案事業２の効果・スケジュール----------19
（１）効果----------19
（２）スケジュール----------20
６．まとめ----------21
（１）北区版ミズベリングによる波及効果----------21
（２）北区版ミズベリングの将来像----------21

１．提案に至る背景

（１）ミズベリングとは

「水辺＋RING（輪）」、「水辺＋R（リノベーション）＋ING（進行形）」の造語であり、かつてのにぎわいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトである。

水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しいにぎわいを生み出すムーブメントを起こすことが目的となっている。

（２）ミズベリングにかかる現状（全国～北区）

①河川敷地占用許可準則の緩和

・河川の関わりが治水から利水、そして親水に変わっていく。

・河川敷地占用許可準則が段階的に改正され、河川占用にかかる制限が緩和されている。

河川敷地占用許可準則の緩和

	河川占用許可準則 平成11年8月改定	特例措置 平成16年3月通知	河川占用許可準則 平成23年3月改定
対象河川	全国の河川	社会実験として全国で利根川（香取市）、京橋川等（広島市）等の8河川	全国の河川
占用施設	公園、運動場、橋梁、送電線等の公共性または公益性のある施設	左記施設に加え、 ①広場、イベント施設等（これらと一体をなす飲食店、オープンカフェ、広告板、広告柱、照明・音響施設、バーベキュー場等） ②日よけ、船上食事施設、突出看板	左記施設と同じ ①同左 ②同左
占用主体	地方公共団体、公益事業者等の公的主体	①の施設は、公的主体 ②の施設は、公的主体または民間事業者	①②の施設の区別なく、公的主体または民間事業者

※国土交通省の資料を参考に作成

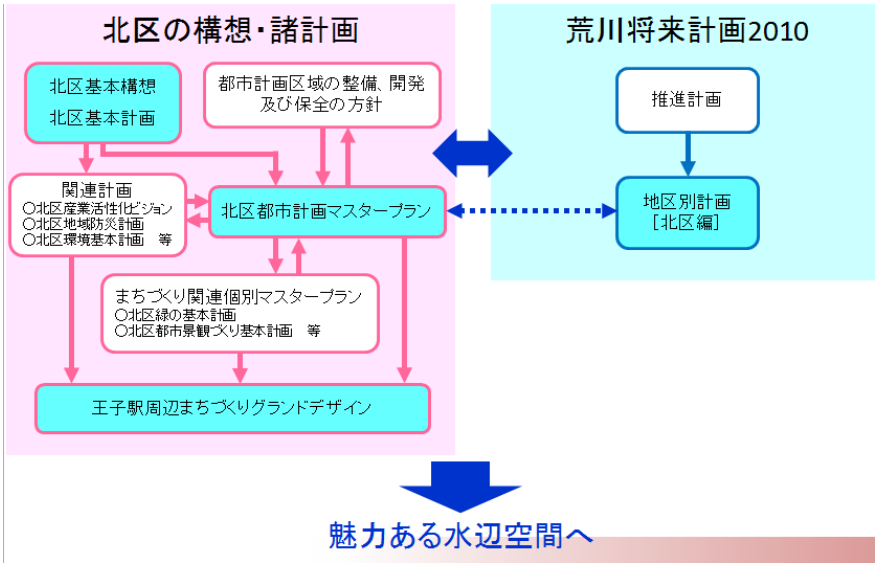
②全国の動向

平成 25 年 10 月、都内初の民間事業者による河川敷地を利用したオープンカフェとして、隅田川オープンカフェが開設された。平成 26 年 7 月、関東初のイベント広場として大落古利根川イベント広場がオープンした。また、河川の管理用通路を活用した飲食店として、日本橋川かわてらすが平成 26 年 3 月に開設された。

③北区の現状

	区分	河川管理者	川幅 最小～最大（m）	主な利用方法	活動団体
荒川	一級河川	国土交通省	170～250	バーベキュー、サイクリング、ジョギング、野球・サッカー	北区・子どもの水辺協議会
隅田川	一級河川	東京都	90～130	通勤・通学	
新河岸川	一級河川	東京都	45～85	通勤・通学	
石神井川	一級河川	東京都	15～20	通勤・通学、ウォーキング、ジョギング	石神井川の自然を守る会

北区内には荒川、隅田川、新河岸川、石神井川の 4 つの河川が流れている。最も川幅が広いのが荒川であり、その広大な河川敷にはバーベキュー場やスポーツ施設が設置され、さまざまな利用がされている。石神井川以外の河川については主要駅から離れた位置にある。



北区基本構想における将来像を「ともにつくり未来につなぐときめきのまち　―人と水とみどりの美しいふるさと北区」と定め、人と自然が共生し、将来世代へと引き継いでいくことができる、ゆとりとうるおいのある美しいまちを目指している。

この将来像の下、都市計画マスタープランでは水辺空間の整備・保全やうるおいのネットワーク形成についての方針が述べられている。また、王子駅周辺まちづくりグランドデザインでは目標とするまちを「飛鳥山と石神井川のある水と緑のまち」と定めている。北区の諸計画・構想は荒川沿川の 2 市 7 区それぞれに策定される荒川将来像計画地区別計画と強調し、魅力ある水辺空間の実現を図っていく。

（3）ロゼが行った調査研究

①アドバイザーとの意見交換

平成 30 年度ロゼアドバイザー　　知花　武佳　氏

（東京大学大学院工学系研究科　社会基盤学専攻　河川/流域環境研究室　准教授）

アドバイザーによる研究テーマ講義及び意見交換により、水辺空間の活用を考える上でのヒントを得ることができた。

・水辺は使うほどに良くなる

環境があまり良くはなかった川も、人が使うことで自然と良くなっていく。

・担い手が重要

川とかかわれる環境づくりを進めていくことで、担い手が生まれる。

・川幅で利用のかたちが変わる

川幅の広い川は河川敷が利用しやすい。川幅の狭い川は中に入るなど、川そのものの利用ができる。

②区内河川調査

平成 30 年 6 月 21 日から 7 月 11 日にかけて、区内 4 つの河川について、「河川状況調査票」による現地調査を実施した。A.川周辺の環境、B.川の環境、C.川との結びつき、D.川の活性度の 4 つの大分類からなる 17 個の項目について、それぞれ 0～3 点で評価をした。その結果、親水性と関連する C,D について石神井川と荒川の点数が高くなった。

川/0～3点	石神井川	荒川	隅田川	新河岸川
A. 周辺環境 ・遊歩道 ・休憩場所	1.6	1.5	1.8	0.9
B. 川の環境 ・水質 ・生物	1.7	2.3	1.3	1.3
C. 結びつき ・歴史的背景 ・イベント	2	2.5	1.5	1
D. 活性度 ・利用者数 ・住民活動	2	2	1	0

③区外河川視察

	主要駅徒歩分	川幅	自治体	主な利用方法
神田川	高田馬場 5分	中	新宿	川で遊べるテラス （期間限定）
玉川上水	新宿御苑前 5分	小	新宿	せせらぎの川 緑あふれる遊歩道
渋谷川	渋谷 3分	中	渋谷	まちと水辺が一体 商業・イベント利用
多摩川	二子玉川 5分	大	世田谷	水遊びスペース BBQ、ピクニック

北区の河川の特徴を把握するため、川幅の条件が類似している他自治体の河川を調査した。

いずれの河川も駅から徒歩 5 分以内とアクセスが良い。水辺の活性化にはアクセスの良さと利用者の多さが重要である。

④シンポジウムへの参加

「東京の川を考えるシンポジウム 2018」（東京都建設局、2018 年 7 月 31 日）

テーマ：地域のつながりの場としての水辺空間の活用

基調講演者　保井美樹氏（法政大学現代福祉学部・人間社会研究科教授）

シンポジウムに参加し、水辺空間活性化のために重要な 3 つのポイントを得ることができた。

・「おもしろさ」の追及がアイディアを生む

川でこんなことができたらおもしろいのではないか、という気持ちや発想力が活動の原動力となる。さまざまな発想を持った人たちが集まり、話し合える場が必要。

・水辺とまちをつなぐ

水辺を活性化するには、水辺空間だけを活性化するのではなく、まちから水辺へつながる空間を一体的に整備し、平時から水辺を利用してもらえるようにする。

・川に対して正面を向いた取組み

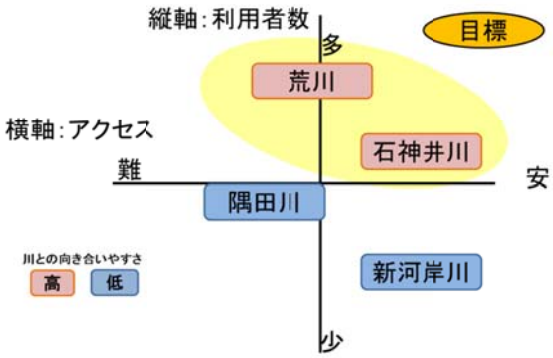
通りや商店などが川に背を向けたままでは水辺の活性化は難しい。大きな河川よりも、地域を流れている小さな河川の方がこの点では有利になる。

（4）魅力的な水辺空間の創出へ向けて

これまでの調査研究を踏まえ、水辺空間の活性化は次の3つの要素が必要であると結論づけた。

・アクセスが良いこと
・利用者が多いこと
・水辺と向き合えること

これらの要素を指標とし、アクセスを横軸に、利用者数を縦軸に、川との向き合いやすさ（高・低）を色で示し、区内の河川を評価したものが右図である。



このうち評価の高かったものが荒川と石神井川の 2 河川である。荒川はアクセスに課題があるものの、広大な敷地に由来して利用者が多い。石神井川は王子駅からのアクセスが良いため、通勤や通学等日常での利用者は見られるが、レクリエーション等の利用者は少ない。荒川ではイベントが開催されており、石神井川では昔は料亭が軒を連ねていたことから、川との向き合いやすさは高いと言える。そこで、この 2 河川をモデル河川として選定し、施策を提案する。各施策を実施することにより、北区の資源を活かした魅力的な水辺空間を創出し、最終的には、隅田川及び新河岸川を含む 4 河川に「にぎわい」をつくることを目標とする。

（5）基本方針

北区のミズベリングの目指すところは、北区の水辺である 4 河川に「にぎわい」をつくることであり、本事業提案は「にぎわいづくり」の土台づくりである。

この土台づくりに加え、「交通の利便性」、「住みやすさ」という特徴を最大限に活用し、水辺とまちがつながるよう水辺ににぎわいをつくることを、北区版ミズベリングとする。

本事業提案では河川を有効活用する上でのモデル事業とするため、より条件の良い荒川と石神井川を対象としている。

事業提案をするにあたって、次のとおりモデルとなる 2 河川においてテーマを設定した。

≪荒川≫

「スマートアクセス to the river～そうだ荒川に行こう～」

水辺の活性化においてアクセスの良さが重要であることを踏まえ、荒川を日頃から身近に感じ、気軽に行ける場所にすることで、水辺空間に新たなにぎわいの場を創出し、赤羽駅周辺の繁華街のにぎわいとつながりを持たせる。

≪石神井川≫

「新庁舎から始まる川と向き合うまちづくり」

水辺の活性化において川とまちをつなぐことが重要であることを踏まえ、石神井川の近くに予定されている新庁舎建設の機を捉え、石神井川に川とまちをつなぐ役割を担ってもらい、魅力的な水辺空間の創出を図る。

２．提案事業１（荒川）

（１）河川利用のしくみづくり

①事業背景

国土交通省では「資源としての河川利用の高度化」に取り組んでおり、「魅力ある水辺空間の創出」方法として、水辺を活用したい人々の取組みを積極的に支援することを方策としている。年に 1～2 回の荒川下流水辺会議のほか、平成 29～30 年には、社会実験として民間事業者の資金を活用した「水辺フェスタ赤羽岩淵」を開催した。区としても、水辺空間活性化に向けて民間事業者の多様な知恵・ノウハウ・アイデアを積極的に活用していくため、関係課と荒川下流河川事務所による会議を不定期で開催している。

②事業概要

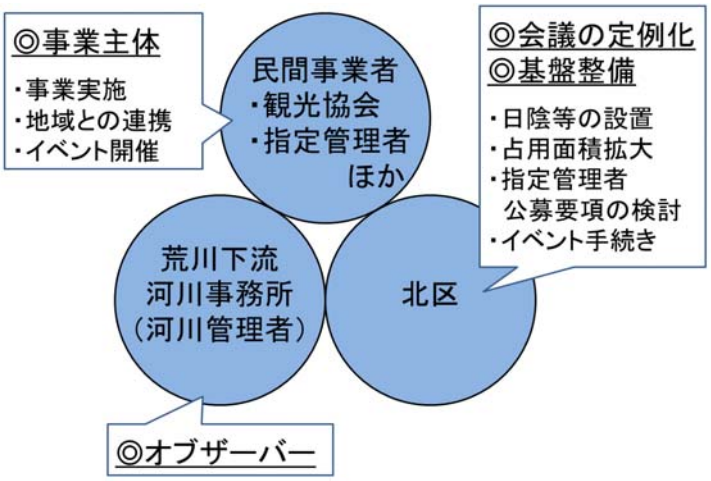
今後の具体的な取組みを決定する場として、バーベキュー場の指定管理者や一般社団法人東京北区観光協会をはじめとする民間事業者、河川管理者などが参加する会議を区が定期的に開催する。取組みを継続していくため、民間事業者を事業主体とし、民間事業者の資金やノウハウを活用した水辺空間の有効利用を促進する。そのほか、区は民間事業者が事業を行うための基盤を整備する。

③事業提案

国、区、民間事業者の役割を右図のとおり明確化する。区は、民間事業者、河川管理者などが参加する会議を年に 3～4 回開催し、今後の具体的な取組みを決定していく。

なお、イベント直前などは必要に応じて臨時で会議を開催する。

国、区、民間事業者が、それぞれ協力し合いながら、水辺空間に賑わいを生み出していく。



水辺空間活性化のための基盤整備として、河川敷を快適に過ごせる場所にするために、区は日陰、ベンチ、自動販売機などを整備する。整備にあたっては、定例化した会議において、魅力的な空間デザインを検討する。

例）赤水門や青水門など、北区ならではの資源と調和した空間

河川敷では、民間事業者が主体となり、通常時から人を呼び込むための事業と、多くの人や事業者に荒川を知ってもらうきっかけとしてのイベントを実施する。区は、民間事業者による水辺空間での事業参入を促進する。

通常時から人を呼び込むための事業

例 ）・バーベキュー場内での飲み物、軽食、花火の販売
・キャンプ、グランピング場の運営

区は、占用面積の拡大や保健所・河川管理者への届出などを行う。

区民や事業者に荒川を知ってもらうきっかけとしてのイベント

例 ）・クルーズ
・マルシェ
・友好都市の郷土料理イベント
・北区の観光地と歴史を紹介するツアー
・青水門における防災体験

区は、会場の占用手続きや後援名義使用承認などを行う。

④事業効果

民間活力を積極的に活用していくことで、より魅力的な水辺空間を創出することができ、荒川に訪れる人の増加が見込まれる。さらに、多くの人が訪れる荒川で民間事業者が事業を実施することにより、区内の産業の活性化が期待できる。

（２）シェアサイクル

①事業背景

ＪＲ赤羽駅から荒川までの距離が遠く、アクセスが困難な状況である。また、現在の交通手段として徒歩やバス、自動車の利用が主流となっている。

②事業概要

現在、一部区間に民間事業者（※）が主体となりシェアサイクル事業が展開されている。現在、民間事業者が展開しているシェアサイクル事業を拡大し、区が主体となりシェアサイクル事業を導入する。今後、区有施設や鉄道駅中心にサイクルポートを設置し、河川へのアクセスとまちの回遊性向上を図る。

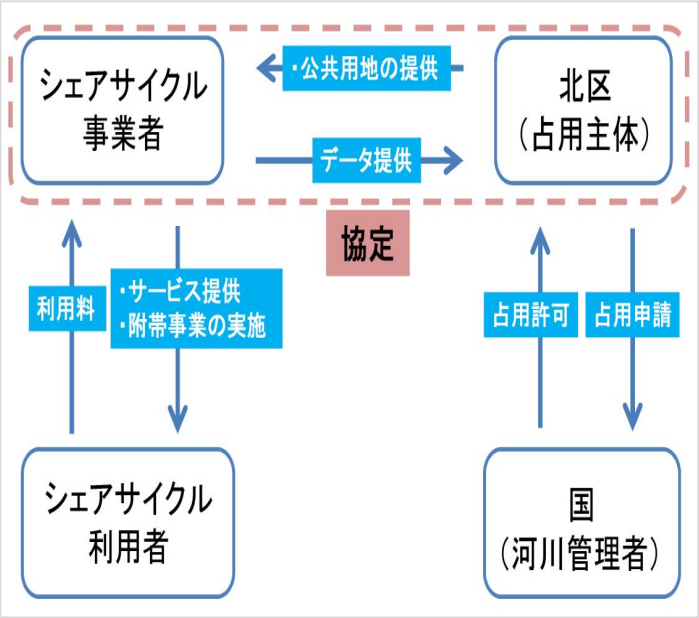
（※）民間事業者：ハローサイクリング、ＰＩＰＰＡ

③事業提案

≪事業スキーム≫

・北区⇔国

北区（施設管理課）が国（荒川河川管理事務所）に河川の占用申請を行う。本来、事業者が国に占用申請すると占用料が発生するが、北区が介入することで、占用料がかからなくなる。



・北区⇔シェアサイクル事業者

北区（施設管理課、土木政策課、道路公園課）とシェアサイクル事業者は、協定を結び北区は公共用地の提供を行い、事業者はシェアサイクル利用者の利用状況について情報提供を行う。協定の内容として、実施方法、付帯事業、役割分担や費用負担を明確にすることが挙げられる。

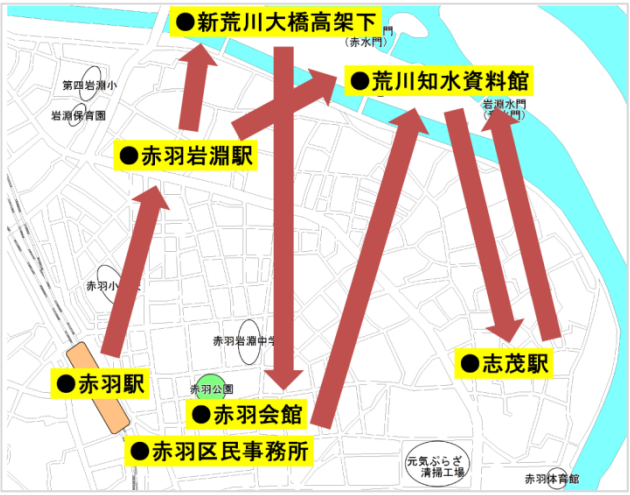
・シェアサイクル事業者⇔シェアサイクル利用者

サービスの提供や付帯事業を実施する。付帯事業として、自転車利用のルール・マナー啓発事業の実施や、Google マイマップとの連動を行う。

≪サイクルポートの設置≫

駅周辺や赤羽会館、荒川知水資料館などの区有施設を中心にサイクルポートを設置する。また、シェアサイクル事業者との調整により、サイクルポートを民有地に設置することが想定される。

具体的な場所の確保については、今後、道路公園課、東京都や国土交通省との調整が必要となる。スペースが限られている場所もあり、スペースの確保についても今後検討していく。



≪コスト≫

・北区

<u>費用負担なし</u>

協定内で費用負担を明確にし、導入にあたる初期費用、事業の運営にかかる費用は、すべて事業者負担とする。公共用地の使用料、河川用地の使用料は免除する。（参考）江東区役所

・シェアサイクル事業者

<u>全額負担</u>

初期費用、運営費用、民用地の使用料は、全額事業者負担とする。

江東区サイクルポート

④事業効果

シェアサイクルを導入することで、赤羽駅から荒川までの移動距離が短縮され、河川に訪れる人の増加が予測される。従来の移動手段である徒歩、バス等に公共交通機関の補充ができ、利用者の行動範囲が広がる。それに伴い、商店街の利用者が増え、現在まで注目されていなかった観光資源が発掘され、地域の活性化にも繋がると考えられる。

（３）Google マイマップ

①事業背景

最寄駅から荒川までは距離が遠く、住宅が密集しており、経路がわかりづらい状況である。

ウェブ上のマップサービスを利用することで、現在地から目的地までの経路や所要時間がわかるなど、利便性の向上が期待できる。なお、北区のウォーキングアプリ「あるきた」や、北区観光ホームページ上の「産業遺産ガイドマップ」では、Google マップが採用されている。

また、前述のシェアサイクル事業を導入した場合、河川へのアクセス向上が見込まれるが、駅と河川の行き来のみとなってしまう可能性がある。そのため、駅から水辺空間までの「まち」も併せて楽しんでもらうしくみが必要である。

②事業概要

駅から水辺空間までの「まち」の回遊性を向上するため、バーベキュー場や駅、サイクルポートなどを拠点に設定した Google マイマップを作成する。

また、Google マイマップの情報を充実させるため、区内店舗を対象に、Google マップへの店舗情報登録講座を実施する。

登録店舗一覧とあわせて、作成した Google マイマップを北区ホームページで公開する。

③事業提案

≪事業スキーム≫

北区が事業概要を決定し、東京北区観光協会と委託契約を締結する。

東京北区観光協会は、荒川岩淵関緑地バーベキュー場、ＪＲ赤羽駅、東京メトロ赤羽岩淵駅及び志茂駅、サイクルポートなどを拠点に設定した Google マイマップを作成する。

また、東京北区観光協会は、区内店舗を対象に、Google マップへの店舗情報登録講座を実施する。なお、講座の受講料は無料とする。

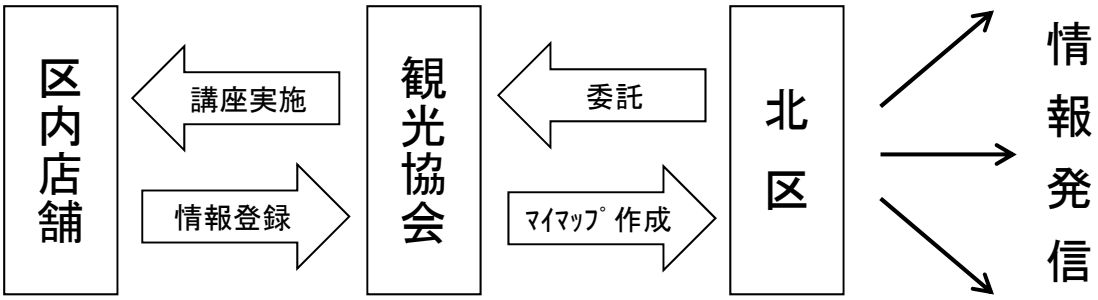
Google マップへ情報を登録するには、Google マイビジネスという無料ツールを利用する。

Google マイビジネスから住所、電話番号、営業時間、メニューなどを登録することによって、Google マップ上で誰もがその情報を閲覧することが可能となる。Google マイマップは、Google マップの情報を基に作成されるため、Google マイビジネスから登録した情報は Google マイマップにも反映される。講座では、主にこの Google マイビジネスの利用方法を説明する。

北区ホームページには、完成した Google マイマップ、登録店舗一覧のほか、関連リンクを掲載し、区内の回遊をより一層促進する。

北区ホームページ掲載内容

・Google マイマップ
・登録店舗一覧
・関連リンク
　シェアサイクル
　あるきたアプリ
　北区観光ホームページ



④事業効果

北区ホームページ上で Google マイマップを公開し、シェアサイクルとあわせて周知することによって、河川までのアクセス向上だけでなく、区内の回遊性向上も図ることができる。そして、登録店舗へ訪れる人が増加し、区内の産業が活性化される。

委託先を東京北区観光協会とすることによって、東京北区観光協会と区内店舗に繋がりが生まれ、荒川河川敷での事業実施にその繋がりを活かすことができる。

Google マップへの店舗情報登録講座を無料で実施することによって、ホームページを作成していない店舗の情報発信を支援することができる。

３．提案事業１の効果・スケジュール

（１）効果

荒川河川敷エリアに新たなにぎわいの場を創出し、それを赤羽繁華街エリアのにぎわいと繋ぐことで、川とまちとの間に人の相互循環を生み出す事がこれら３事業の目的である。

上図は、３事業が実現した際の赤羽～荒川エリア回遊イメージである。

河川利用のしくみづくりによって河川敷空間が徐々に活性化され、民間事業者や住民団体など、様々な主体による活動、イベント等が行われるようになる。河川敷に人を惹きつける仕掛けができることで、河川敷エリアににぎわいの土台が作られてゆく。

また、シェアサイクルにより河川へのアクセス性が向上し、川とまちとの間を誰でも自由かつ快適に行き来できるようになる。

そして、Google マイマップにより川とまちとが繋がり、回遊性が生まれる。川とまち、どちらを目的として北区を訪れても、川とまちの両者を一体のものとして楽しめるようになる。

これら３つの事業が相互に関連・作用しあうことで相乗効果が生まれ、川とまちとの間に人の相互循環が生まれる。相互循環のなかで川とまちとを回遊し、一体的に楽しんでもらうことで、河川へ訪れる人の満足度を向上させる事ができると考える。

河川へ訪れた人の満足度が高ければ、再度の来訪や周囲への情報発信・拡散にも期待ができる。そうして徐々に赤羽～荒川エリア全体へとにぎわいが波及していく。

（２）スケジュール

・しくみづくり

令和２年（2020 年）　区を中心とした会議の運営を開始。同時に河川敷空間のデザイン・ハード整備に関する協議も開始。

令和３年（2021 年）　荒川河川敷エリアで定期的なイベント開催を開始。

令和４年（2022 年）　デザイン・ハード整備に関する協議に基づき、ハード整備を実施。

令和５年（2023 年）　新たな指定管理者による荒川河川敷エリアでのミズベリング事業を開始。

・シェアサイクル

令和２年（2020 年）　区によるシェアサイクル事業者の公募を実施。

令和３年（2021 年）　実証実験を開始。

・マップ

令和２年（2020 年）　北区観光協会と委託契約を締結。

令和３年（2021 年）　北区ＨＰへマップのリンク掲載を開始。

<table>
<tr><th>年表</th><th>令和元年
（2019年）</th><th>令和2年
（2020年）</th><th>令和3年
（2021年）</th><th>令和4年
（2022年）</th><th>令和5年
（2023年）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">しくみづくり</td><td>事業精査</td><td>会議の定例化
役割明確化</td><td colspan="3">イベント実施</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>指定管理者
公募要綱の検討</td><td>指定管理者公募</td><td>食品・花火販売開始
キャンプ事業開始</td></tr>
<tr><td>指定管理者</td><td colspan="3">指定管理者</td><td>指定管理者</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">空間デザイン・ハード整備に関する協議
占用許可取得</td><td>ハード面整備</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">シェアサイクル</td><td>事業精査</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>事業者公募</td><td colspan="3">実証実験</td></tr>
<tr><td rowspan="2">マップ</td><td>事業精査</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>委託契約
（北区観光協会）</td><td>北区HPへ
リンク掲載</td><td></td><td></td></tr>
</table>

４．提案事業２（石神井川）

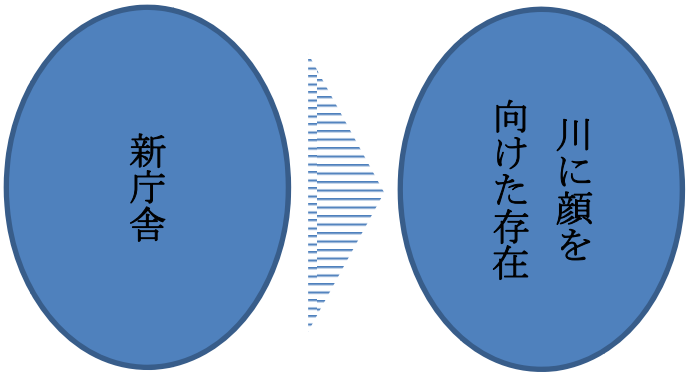
（１）にぎわいの場づくり

①事業背景

かつて江戸時時代には玉子焼きで有名な王子扇屋が当時の音無川沿いにお店を構えており、さまざまな行事が行われ、夏には人々が涼を取る場所で非常に賑わい大変繁盛していたといわれている。当時の王子扇屋のように、新庁舎が川に顔を向けた存在として水辺とまちをつなぐことにより、かつてのようなにぎわいの場づくりの拠点とすることを目指す。

江戸時代に川とつながり繁盛した王子扇屋

出典：北区飛鳥山博物館所蔵　『王子・料理屋』



②事業概要

水辺と新庁舎をつなぐこと、水辺とまちをつなぐことを意識した取組みを新庁舎建設における計画に盛り込んでいく。

③事業提案

新庁舎における水辺と向き合うまちづくり

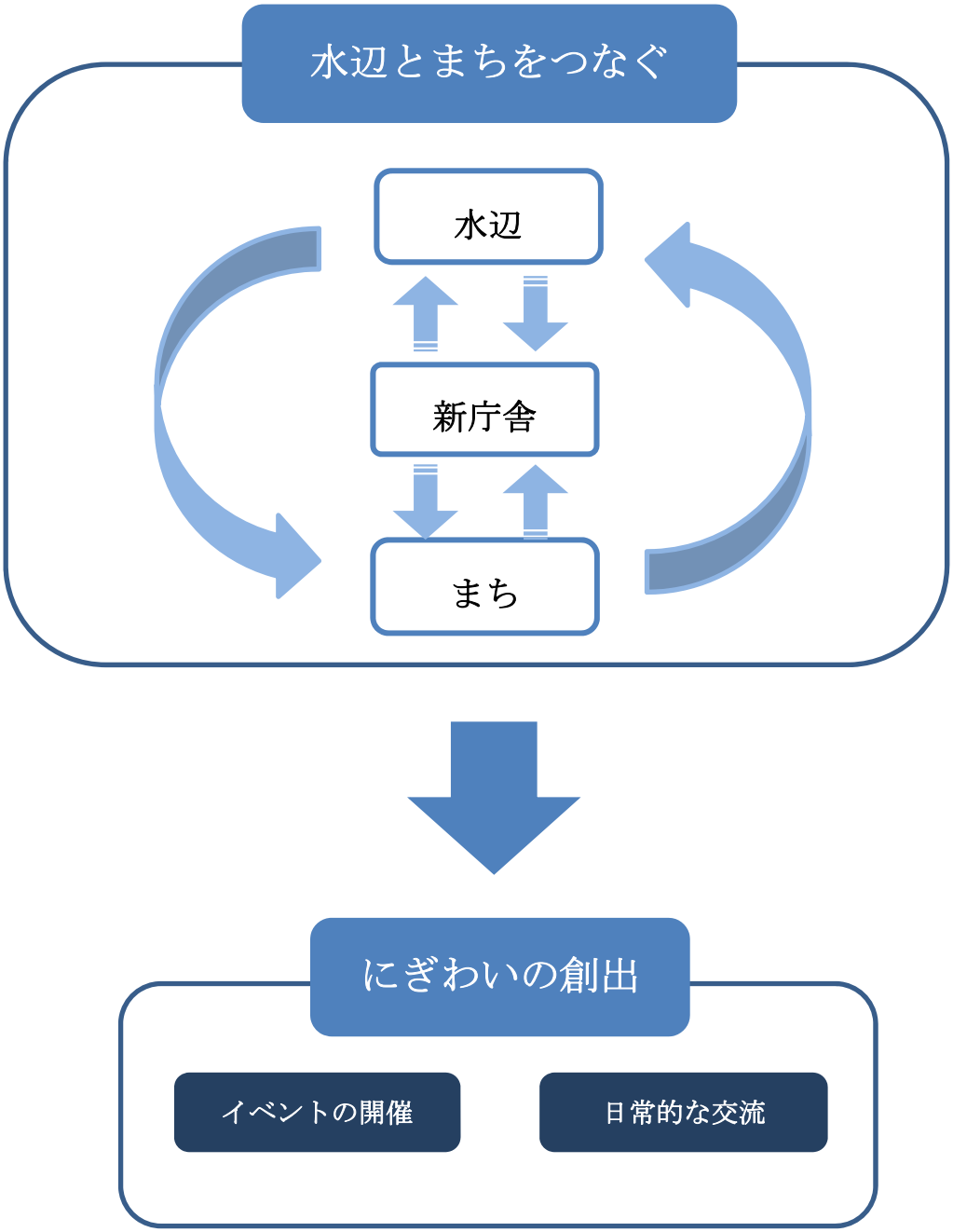
- 川側への入り口の設置
- 水辺を身近に感じることができるビオトープの設置
- 新庁舎から石神井川沿いのアクセス整備
- 北区の河川で観察できる生物や川魚の展示
- 湧水や石神井川の水を庁舎のトイレ等に活用

↓

新庁舎建設基本計画　　**新庁舎周辺のまちづくり計画**

④事業効果

新庁舎を拠点とし、水辺とまちをつなぎ、にぎわいを創出することにより、水辺とまちに一体感が生まれる。新庁舎をにぎわいの場として、イベントの開催や日常的な交流が行われるなど、コミュニティーの場として一層活用範囲が広がる。



（２）ふれあいの場づくり

①事業背景

現在、RSS（リバーサイドスクエア）（※）は水辺との高低差により水辺に近づくことはできず、隣接する商業施設が通路により分断られてしまい背を向けた配置となっている。そのため、駅の利用者が町を回遊するスポットとはならず、通学・通勤のための通路としての利用が多い。また、臭気の発生やゴミの投棄による景観破壊などの問題を抱えている。

（※）RSS

都電荒川線王子駅のすぐ隣に位置し、石神井川の旧流路を修景整備したもの。公共空間の少ない都市の中小河川において、周辺市街地と調和した空間を整備し、王子地区に良好な都市景観を創り出し、うるおいのあるまちづくりに役立てることを理念とし、昭和 60 年に計画、平成 21 年に整備された。

RSS の現状

②事業概要

RSS をふれあいの拠点とするため、二層式河川（※）への整備及び下記の取組みを提案する。

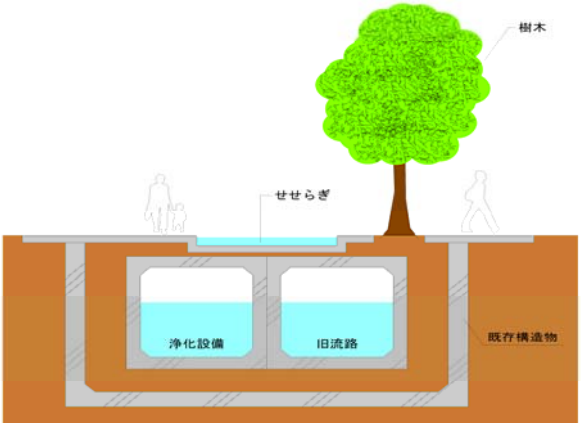
・ベンチの設置、カフェ等の併設による水辺テラスによる「憩いのスペース」

・浄化施設の設置による臭気対策、良質な水辺空間の創出を図り「河川のイメージアップ」

・せせらぎの整備により水辺にふれあえる歩道となり「親水性の向上」

（※）二層式河川

河川を二層の構造とし、上部と下部で異なる機能を持たせる整備方法。下部を流れる河川に浄化設備を設置し、浄化した水を上部でせせらぎとして流すことができる。また、洪水時には増水した河川は下部を流れるため、上部の被害を最小限にすることが期待できる。



二層式河川概要

③事業提案

≪事業スキーム≫

北区

・水辺テラスの占用の許可

・占用料として得た資金を石神井川の良質な水辺空間の保全・創出へ活用

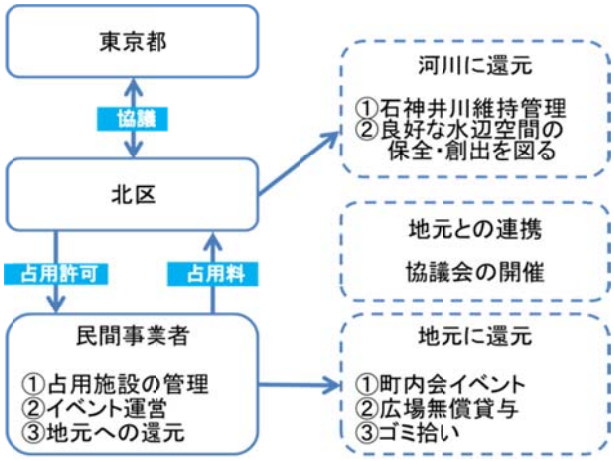
・区を中心に協議会を開催

民間事業者

・水辺テラスの管理やイベントの運営

・地元町会と連携したイベントの開催

・ゴミ拾い等の地域への還元活動



事業スキーム

④事業効果

RSS を二層式河川へ整備し、水辺テラスの設置により水辺に直接ふれあえる空間が生まれる。また、浄化施設の設置により臭気の改善につながる。良好な水辺空間は石神井川のイメージアップとなり、水辺に正面を向いた商業施設の増加や景観を維持する取組みが活発化することが期待される。

完成後イメージ

（3）つなぐ場づくり

①事業背景

現在 JR 王子駅北口から RSS 方面へ向かうためには、歩道橋を渡るルートと、横断歩道を渡るルートの二通りがある。歩道橋はバリアフリー化されてないため、利用者が少なく、横断歩道は二段階式のため、横断に時間がかかってしまう。

また、王子駅北口は JR、地下鉄、都電、バスの乗り換え利用者が多く、駅構内で人の動きが完結してしまっている。

現在の王子駅北口付近

現在の王子駅北口から RSS 方面

②事業概要

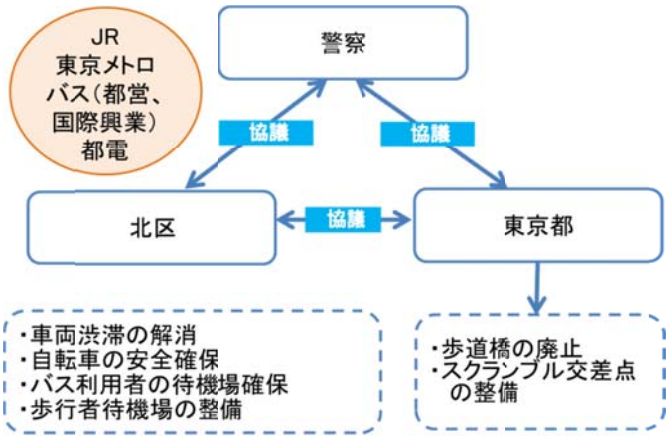
アクセスの向上を図るため、高齢者や障害者が利用しにくい歩道橋を撤去し、横断をスムーズに行うことができるようにするため、スクランブル交差点を設置する。

③事業提案

警察、東京都、北区の三者間の協議に加え、JR、東京メトロ、バス会社や都電等の関係機関との協議・調整が必要となる。

歩道橋の廃止及びスクランブル交差点の整備は東京都が実施する。

王子駅前は多くのバス路線があることから、スクランブル交差点化に向け、車両渋滞の解消が重要なポイントとなる。そのため、実証実験を行うなど、慎重な検討が必要である。



④事業効果

これまでは駅から駅への乗り換え利用者が多かったが、スクランブル交差点ができることにより、駅からまち、川への新たな人の動きが生まれ、王子のまち全体の活性化に繋がる。

また、川とまちをつなぐことで、まちの連続性や回遊性の向上が図られる。

スクランブル交差点設置後の王子駅北口周辺の人の流れのイメージ

５．提案事業２の効果・スケジュール

（１）効果

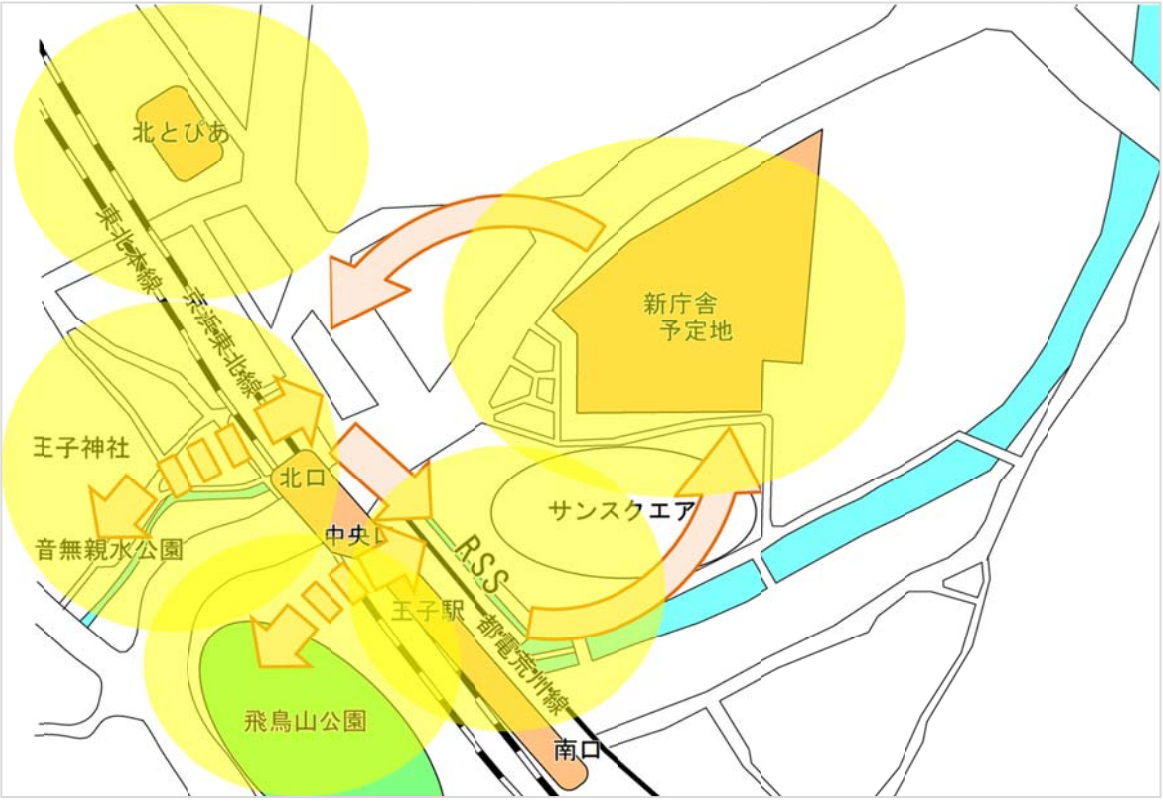
「王子まちづくりグランドデザイン」に沿った形で水辺の周辺（駅周辺）を再整備することで、水辺を活用しやすい環境ができる。

このことにより、にぎわいの場が生まれ、まちとしての魅力度が向上する。

また、まちとしての魅力度向上により、住民や駅利用者の回遊が生まれる。

好循環により、将来的には、イベント利用や、民間事業者の水辺活用の参入等ミズベリングを巻き起こしていく。

本提案は、そのための「仕掛け」づくりである。



上図は､3 事業が実現した際の石神井川とまちの繋がりによって生まれる回遊のイメージである。

イメージで表しているように、石神井川、王子駅、音無親水公園、飛鳥山公園、北とぴあ、新庁舎、RSS、その他近隣商業施設等が一体的となって王子駅周辺のまちを活性化し、より住みやすい成熟したまちへ進化していくことができる。

（２）スケジュール

・にぎわいの場づくり（新庁舎）

令和３年（2021 年）　新庁舎建設計画及び新庁舎周辺のまちづくり計画に本提案内容を盛り込む。

令和 15 年（2033 年）　新庁舎が完成され、にぎわいの場として水辺の拠点ができる。

・ふれあいの場づくり（RSS）

令和２年（2020 年）　まちづくり部が中心となり、事業計画の素案を策定。

令和３年（2021 年）　地域住民・民間事業者と協議会を開催。

令和４年（2022 年）　事業計画を策定。

令和５年（2023 年）　RSS の整備開始。

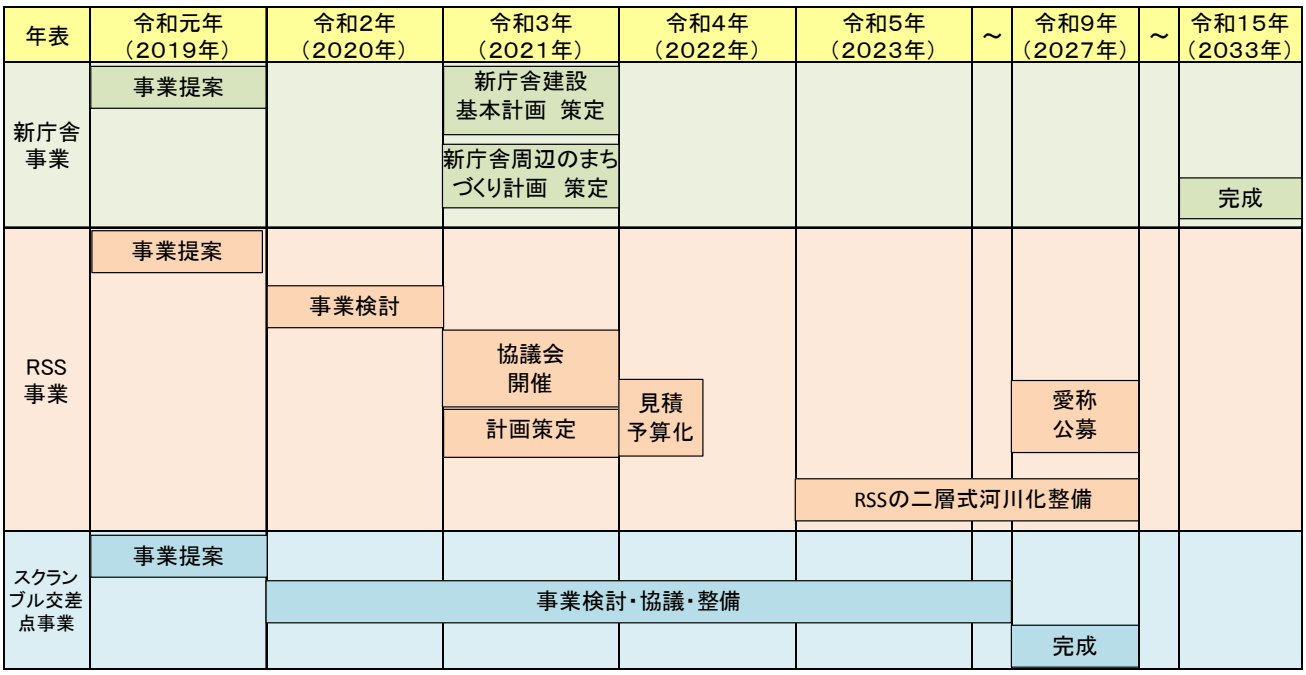
令和９年（2027 年）　RSS の再整備完了。

RSS の新たな愛称募集・決定。

・つなぐ場づくり（スクランブル交差点）

令和２年（2020 年）　事業検討・協議・整備開始。

令和９年（2027 年）　スクランブル交差点の整備完了。



６．まとめ

北区は区内に 4 つの河川を有している。多くの河川を有することは、生活安全上のリスクを伴う。しかし、本研究で、それぞれ特性の異なる河川が複数存在することは、ミズベリングを実施する上で非常に恵まれた環境であり、他の地域には真似のできない北区ならではの資源・強みを持っていることが分かった。

（1）北区版ミズベリングによる波及効果

北区版ミズベリングを推進することで、3 点の波及効果が期待できる。

まず 1 点目は、まちの活性化である。北区版ミズベリングによって水辺のにぎわいとまちを繋ぐことにより、まちと水辺の間の広範にわたり人の相互循環が生まれる。相互循環のなかで街と水辺の両者が活性化し、そのにぎわいが人を呼ぶ好循環が発生する。これにより、北区の知名度向上や他自治体との差別化、定住人口の増加などが期待できる。

続いて 2 点目は、コミュニティ機能の強化である。水辺という一つの場での活動を通じ、人と人との繋がりや地域への愛着が生まれることもまた、ミズベリングの効果の一つである。少子高齢化をはじめとする今後の行政課題への対応には地域での互助が非常に重要となってくる一方、昨今では地域コミュニティの衰退による地域の互助機能低下が問題視されている。

ミズベリングの様々な活動は、和気あいあいとした雰囲気のなかで人と人のきずなを深め、地域の繋がりを回復することが期待できる。

最後に 3 点目は、防災機能の強化である。例えば震災時、河川敷が避難場所になることは十分に知られているとは言えない。また、北区内には複数の防災船着場が整備されているが、その機能や使い方に触れる機会がなければ、いざという時に有効活用することが難しいのは明白である。

ミズベリングを通じて平常時から川に親しみ、そのアクセスルートや機能、どこに何があるかを知っておくことは、地域の防災力を高めることに寄与するのである。

（2）北区版ミズベリングの将来像

時代が治水から利水、親水へと移り変わってきたように、北区も今後は河川を持つことのメリットに目を向け、それを最大限生かせるよう取組みを進めていくことで、より魅力あるまちになる可能性を秘めていると期待できる。

地域の持つ資源を活用することで、北区ならではの個性と魅力が開花し、うるおいとにぎわいのある美しいまちづくりがより一層推進されるであろう。

また、今回の研究は、荒川と石神井川に絞って、施策提案を行ったが、隅田川及び新河岸川についても、本事業提案で得られた経験を活用することで、より河川の特性に合った事業を実施でき、区内のさらに広範囲に渡ってにぎわいの輪を広げる事ができると考える。